

Pinus Thunbergii PARL.

α **monophylla** MAYR, Monogr. Abiet. japon. Reiches, p. 89 (1890).

Syn. *Pinus Massoniana* β *Fitots-matsu* i. e. *Pinus monophylla* SIEBOLD, Flora Japon. II, p. 27 (1870).

Pinus Massoniana var. *monophylla* SIEB. et ZUCC. ex MAYR, l.c.

Pinus Thunbergii var. *monophylla* Hort in BEISNER, Nadelholzkunde, ed. 2, p. 394 416 (1909) ed. 3, (1930).

Nom. Jap. *Hitotsu-matsu* (SIEBOLD)

Pinus densiflora SIEB. et ZUCC.

α **monophylla** MAYR, l.c. p. 90. BEISNER, l.c. ed. 2, p. 438 et ed. 3, p. 410.

Nom. Jap. *Aka-hito-ba-no-matsu* (MAYR)

These two varieties are monophyllous forms resulted by conjugation of two leaves. Beside these the author observed the following form;

Pinus Thunbergii PARL.

forma **unifoliata** HISAUCHI, forma nov.

Ramus abbreviatus unifoliatus.

Nom. Jap. *Hitoha-no-kuromatsu* (nom. nov.)

Hab. Hondo: Koigakubo, Kokubunji in Prov. Musashi (Cult.).—Typus in Herb. Univ. Imp. Tokyo.

Planta endemica.

This variety bears one leaf only which may be caused by the devolution of the opposite one and the normal form sometimes occurs on the same tree.

雜 錄 Miscellaneous

九月ノ白馬嶽ニ登ル

佐 竹 義 輔

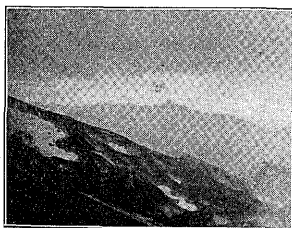
Y. SATAKE: Mt. Sirouma in September

昭和9年9月12—16日、中野教授指導ノ中期學生植物生態學實習ノ末席ニ連ツテ、9月ノ白馬嶽ニ登ル機會ヲ得タ。白馬嶽ハ既知ノ如ク、夏期ニハ小中學生女學生ガワンサト押カケル程、夏ノ登山ニハ喧傳サレ、北アルプスニ入ル人ノ第一歩トシテ常ニ登ラレル山デアル。高山植物ノ豊富ナ點ニ於テモ亦内地デハ筆頭ニ推サレル山デ、古クカラ植物採集家、高山植物愛好家ノ戰場トサレテキタモノデアル。然シ、以來盛ニ濫採サレタ結果、高山植

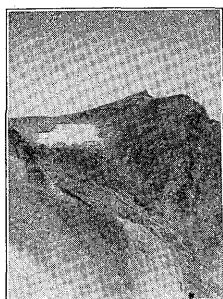
物ハ著シク衰微シテ來タノデ、數年前ヨリ、天然紀念物トシテ 内務省ニヨツテ 保護サレルコトニナリ、採集ハ全ク禁ジラレルニ至リ、現今デハ専門ノ分類學者ト雖モ採集ハ嚴禁サレテシマツタノデ、採集家ハ勿論高山植物愛好者ハ 山ニ登ツテモ唯指ヲクハヘテ 涎ヲ流スノミ、監視人ノ意地惡サウナ眼光ニ 不愉快ナ 思ヒヲシナケレバナラクナツテシマツタ。シカシソノオ蔭デ植物ハ段々繁殖シテ以前ノ勢力ヲ保チ得ルヤウニナリ、立派ナオ花畑又ハ植生ヲ展開シテキル由ヲ、友人カラ聞キ、是非一度行ツテ見タイト 思ツテキタ所デアツタ。シカシ時期ハ9月ノ中旬デアル。氣ノ早イ山ニハ初雪ガオ見舞スル頃デアル。夏ノ絢爛サハ思ヒモヨラズ、頂上附近ハモウ冬枯レダラウト 思フト、アマリ氣ガ進マナカツタガ、岡サンカラ辯舌ヲ盡シテ勸誘サレタノデ、時候ハズレモ又ソレデ何カ面白イ事モアラウ、花ガ見ラレナケリヤ、山ノ静ケサト、空ノ青サヲ 見ルダケデモイ、ト 思ツタノデ、行ク事ニ決心シタノダツタ。出發ノ一日前ニキマツタノデ、何ニモ支度スル暇モナイノデ、防寒具トベスト半截ノ小カメラヲ 持ツタ バカリ、アトハ、同行諸氏ト天ニマカセタ、甚ダ氣安イ山行デアツタ。

行ツテ見テ、來タ事ヲ心カラ喜ンダノダツタ。ソノ理由ハ、1) 氣候ガ例年ヨリ遅レタ爲、山ハ8月中旬頃ノ氣候デ、花ヲ咲カシテキル植物ガ思ノ外多カツタ事、2) 登山期ガ過ギタ後ナノデ、普通ノ登山客ガ全ク無ク、始終我々ノ世界デ、静カナ山ノ氣分ニ浸リキリ、人前ヲ考ヘル事ナシニ植物ト親シムコトガ出來タ事、3) 頂上ノ小屋ハ我々ノ獨占スル所トナリ、食事時モ休ム時モ廢ル時モ、全ク我々丈ノ氣分ニナリ得タ事等デアル。

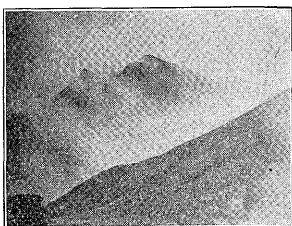
白馬嶽ノ植物ニツイテハ色々報告ガアルガ、Floraノ調査又ハ植物目錄トシテマトマツタモノハ、古クハ矢部博士、近クハ本田博士ノニツデアラウ。本田博士ノハ、昭和4年7月、内務省ノ囑託トシテ、白馬嶽ヲ踏査サレ、その結果ヲ翌昭和5年、



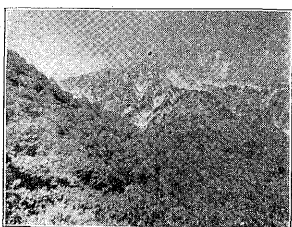
1.



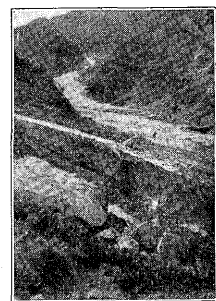
4.



2.



3.



5.

寫眞説明 1. 白馬嶽頂上小屋ヨリ見た 劔嶽ト立山ノ遠望。2. 蘆平ヨリ見た杓子嶽東面。3. 猿倉附近ヨリ見た白馬嶽。4. 杓子嶽ヨリ見た白馬嶽頂上。5. 大雲溪

文部省天然紀念物調査報告植物之部第十一輯ニ報告サレタモノデアリ、ソノ詳細ナ報告ハ夏季ノ高山植物ヲ觀察シ盡シテアマス所ガナイ。シカシ秋ノ白馬嶽ノ植物ニ就イテハアマリ書カレタモノハナイヤウニ思ハレルノデ、コノ機會ニ、甚ダ雜漠ナガラ、9月ノ白馬嶽ノ植物ニツイテ一言シテ置クノモ邪魔ニハナルマイト思ツテコゝニ報告スル次第デアル。前後五日間ノ行程デハアツタガ、雨天ノタメ、實際ニ歩キ廻ツタノハ3日ニ足ラナイシ、採集ヲ禁ジラレ、唯實驗材料ヲ少シ採ル事ヲ許サレタノデアルカラ、到底眞ノ様子ヲ傳ヘ得ルトハ勿論思ハナイガ、幾分デモ諸賢ノ御參考ニナレバ筆者ノ満足スル所デアル。

大體ノ行程ハ次ノ通りデアル。(9月12日)快晴。四谷—二股—猿倉—白馬尻—頂上、16日マデ頂上小屋宿泊。(13日)晴、午後雨。午前中オ花畑ニ下リ仕事。(14日)風雨、終日無爲。(15日)晴、午後雨。杓子嶽中腹カラ朝日嶽ノ方ニ行キ、オ花畑ニ下ル。(16日)快晴、頂上小屋出發—杓子嶽—鏈ヶ嶽—白馬温泉—二股—四谷。

白馬尻附近デハ、くろくもさう、てんにんさう、やまあぢさい、むかでいらくさ、みやまいらくさ、しなのくはがた、みそがはさう等ガ咲イテキタ。さんかえう、きぬがささう、べにばないちど、おほいたどり、みやまはんのき、だけかんば等ガ立派ナ果實ヲツケテキタ。きぬがささうノ果實ヲシヤブツタラ西洋菓子ノ様ナ味ト香ガシテ一寸都會ヲ思出サセタ。大雪溪ハ未ダ雪ガ相當殘ツテキテ、所々ニ大キナ裂目ガ出來テキタ。案内人ノ話デハ、今年ハ氣候ガ稍一月オクレテ、コノ雪ノ様子ハ例年ナラ八月下旬ニモ見ラレルモノダトノ事ダツタ。おほさくらさうノ所々ニ咲キ殘ツタノガ見ラレタ。小雪溪ハ全ク消エテキテ、夏ヲ知ラス自分ニハ何處ニアルノカ見當モツカナカツタ。葱平邊カラ縣營小屋及ビ巡視小屋邊マデハ、登山路ヲ中心ニシテ、たかねうらじろいたどり、たかねするば、しこたんはこべ、みやまきんぼうげ、みやまとりかぶと、だいもんじさう、くろくもさう、はごろもぐさ、おにしもつけ、たひつりわうぎ、りしりわうぎ、はくさんさいこ、みやまおとぎり、しらねにんじん、やまうぬきやう、はなうど、はくさんばうふう、みやまあげぼのさう、みそがはさう、ひめくはがた、しなのくはがた、たかねかうりんくわ、うさぎぎく、たかねよもぎ(しろうまよもぎ)、くろたうひれん、きをん、みやまあきのきりんさう、しろうまあさつき、みやまあはがへり、みやまこめすすき、ひなのがりやす、ひげのがりやす等ガ今ヲ盛リト咲キ亂レ、花期ノ過ギタモノニハ、あらしぐさ、しこたんさう、いはわうぎ、みやまほつつじ、よつばしほがま、えぞしほがま、うすゆきさう、たかねかうぞりな、たかねあをやぎさう等、果實ヲツケタモノニハ、はひまつ、みやまびやくしん、まるばぎしぎし、たかねななかまど、うらじろななかまど、たかねばら、うるつぶさう、みやまおとこよもぎ、いはのがりやす、おのへがりやす、こめすすき、みやまどぜうつなぎ、いはすげ、こたぬきらん、みやまぬ、ねばりのぎらん、しろうまちどり等ガアツタ。最モ美シク眼ニ映ツタノハ、みやまとりかぶとノ紫青色、きをん-みやまきんぼうげノ黃色、みそがはさうノ淡紫ノ花デアツタ。

縣營小屋附近—離山附近カラ頂上小屋附近マデハ、たかねつめくさ、いはつめくさ、たうやくりんどう、みやまりんどう、をのへりんどう、ちしまぎきやう、いはぎきやう、え

ぞむかしよもぎ等が花ヲ咲カシ、むかごとらのを、ほそばつめくさ、あをのつがざくら、みやましほがま、たかねしほがま、よつばしほがまハ花期が過ぎ、りんねさう、しらたまのき、たかねやはすははこ、ちしませんぶり、はないかり、いはいてふ、こいはかがみ、おやまのえんどう、こがねいちど、うるつぶさう、うらしまつつじ等が實ヲツケテイタ。中デ眞盛リノ花盛リハ、たうやくりんだう、ちしまぎきやう、いはぎきやうデ實ニ綺麗デ、冬枯レノ頂上ヲ豫想シテヤツテキタモノニハ、全ク思ガケナイ天上ノ樂園デアツタ。

白馬嶽頂上カラ杓子、鏈ヶ嶽ヘノ縦走路タル尾根筋ニハ全ク見ルベキモノガナカツタ。唯杓子ヘノ下リニナル所カラ一寸右ニ入ツタ砂礫地ニこまくさノ花ガ色アセ萎ビテ、風ニ吹カレテキタノハ哀レニ感ジタ。面白イコトハ、葱平ノオ花畑ニ多イみやまとりかぶとノ紫花ガ尾根マテ上ツテキテ縦走路ノ左側ニボツボツアツタ事デアル。杓子嶽カラ鏈ヶ嶽ヘカ、ル所デ、うらじろきんばい、しろまわらぎノ果實ヲツケタノヲ少シ見タ。鏈ヶ嶽ハ亦赤茶色ノ砂礫カラ成ル禿山デ、急ナ所ヲ一氣ニ砂走リデ下ルト、一寸平坦ナ場所ニナル。ソコハ白馬嶽ノ葱平ノ下部ニ相當スル所デアルガ、ひめくはがた、みやまたねつけばな等ガ多ク咲イテキタ。あをのつがざくらガ澤山アツタ。ソコカラ鏈（白馬）温泉マデノ傾斜地ニハ、みやまほつつじガ咲キ、おやまりんどうガ澤山アツタ。おやまりんどうハ白馬嶽デハ見ナカツタモノデアル。鏈温泉附近ニハ、ちやうじぎクノ黄色、からいとさうノ紅色、いはしやうぶノ白色、はくさんあざみノ紫色、たてやまうつぶぐさノ紫紅色、トソレゾレノ花ヲ咲カシテ競艶最中デアツタ。殊ニちやうじぎクハ筆者ノ始メテ見ル所デ、雪ノヤウナ綿毛ヲ密生シタ花梗ノ頂ニ黄色ノ頭花ヲツケキル様子ハ實ニ美シイモノデアツタ。以上大體見タマ、ヲ述ベタガ、次ニコレヲ植物ノ簡單ナ目錄ヲツケテコノ稿ヲ終ル事ニスル。終リニコノ小文ヲ草スルニ當リ教ヲ乞フタ本田博士ニ深ク感謝スル。

9 月ノ白馬山デ見タ植物目錄

（但シ花又ハ果實ヲ有スルモノノミデ、範圍ハ白馬尻カラ葱平一頂上ノ杓子嶽—槍ヶ嶽—鏈温泉マデノ登山路附近ニ限ル。括弧内ノ符號 h ハ花ヲツクタモノ、j ハ花期ヲ過ぎタモノ、k ハ果實ノミヲツクタモノノ意）

のきしのぶ科—あをちやせんしだ、みやまわらび、みやまめしだ。**ひかげのかつら科**—たかねひかげのかつら。**まつ科**—はひまつ (k)。**ひのき科**—みやまびやくしん (k)。**やなぎ科**—みねやなぎ (k)。**かばのき科**—みやまはんのき (k)、だけかんば (k)。**たて科**—むかごとらのを(j)、えぞいぶきとらのを(j)、まるばぎしぎし(k)、たかねうらじろいたどり(h)、たかねすゐば(b)。**なでしこ科**—たかねみみなぐさ(h)、たかねつめくさ(h)、ほそばつめくさ(j)、いはつめくさ(h)、しこたんはこべ(h)。**うまのあしがた科**—みやまきんぼうげ(h)、みやまとりかぶと(h)。**めぎ科**—さんかえう(k, h)。**けし科**—こまくさ(j)。**あぶらな科**—やまがらし(j)、みやまたねつけばな(h)、みやまはたざを(k)。**べんけいそう科**—いはべんけい(k)。**ゆきのした科**—あらしぐさ(k)、しこたんさう(j)、だいもんじさう(h)、くろくもさう(h)。**なし科**—たかねななかまど(k)、うらじろななかまど(k)。**いばら科**—はごろもぐさ(h)、ちやうのすけさう(k)、おにしもつけ(h)、みやまきんばい(k)、うらじろきんばい(k)、たか